

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書

クローン病手帳の厚労省研究班版 新規作成の提案

研究協力者 飯塚文瑛 東京女子医科大学 准講師

研究要旨：炎症性腸疾患（IBD）診療において、病状日記手帳を作成・利用することは医師・患者双方において客観的で正確な病状の把握を容易にし、また不足した情報の収集やコミュニケーションツールとしての役割を果たす。効率的な情報収集は診療時間を有効に用いることにもつながる。現行のクローン病手帳を刷新し、現状に見合った本研究班版を新規作成する提案を行い検討した。

共同研究者

国崎玲子（横浜市大炎症性腸疾患センター）
長堀正和（東京医科歯科大学）
長沼 誠（慶應大学）
樋田信幸（兵庫医科大学）
新井勝大（国立成育医療センター）
大森鉄平（東京女子医科大学）
鎌田紀子（大阪市立大学）
久松理一（杏林大学）
鈴木康夫（東邦大学佐倉病院）

C. 研究結果

手帳記入スペースの変更や、評価方法に Patients reported outcome (PRO)を取り入れることにより、より客観的な情報を収集することが可能となるなどの意見が得られた。

D. 考察

客観的な情報収集が可能となれば、他施設共同研究などの評価にも対応できるものになる可能性が考えられた。

A. 研究目的

炎症性腸疾患（IBD）患者において、手帳を作成・利用することは医師・患者双方において客観的で正確な病状の把握につながる。効率的な情報収集は、診療時間を有効に用いることにつながる。現行のクローン病手帳を刷新し、現状に見合った手帳を新規作成することを目的とした。

B. 研究方法

現行のクローン病手帳（飯塚が作成した2012年度版）を提示し、使い勝手や記入方法などに対してのディスカッションを行った（倫理面への配慮）
患者対象研究ではないため、特に倫理面への配慮は必要ない。

E. 結論

今後、さらに議論を重ねてより現状に見合った使い勝手の良い手帳への改訂を模索していく。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表
特になし。
2. 学会発表
特になし。

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む）

1．特許取得

特になし。

2．実用新案登録

特になし。

3．その他

特になし。